2020年度シラバス

科目名:教育原理特論	担当者:小栁 雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代の教育システムにおいて教育行政は、いったいどのような役割を担っているのでしょうか。そもそも「行政」は何をするところなのか知っていますか。この授業では教育行政－保育行政の関係性も考えながら、教育を支える行政の役割について学習をして行きましょう。本授業は担当教員による講義と受講生のグループによる発表、および討議によって進行します。

授業の到達目標
①教育行政が我が国の教育においてどのような役割を担っているのかを正しく理解する。②自分自身の実習等実践経験を基に現代の教育・保育の課題を深く考察することができる。③②の課題に対する行政的支援の在り方について理解し、また自分自身で考えることができる。以上３点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
担当教員の講義に対する準備学修は必要ありません。ただし、事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育に関わる最新情報に新聞やインターネット、本などを通じて触れるようにしてください。なお、グループ発表については、発表レジュメの作成や発表の練習などの準備学修が必要となります。

評価方法
①グループ発表の内容（100点）、②討議や授業への参加態度（10点×15回＝150点）および③最終レポート（100点）を総合評価します。うち60%（210点）を本授業の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
使用しません	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、教育六法等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義形式の授業もありますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだことについて自分なりの疑問や意見を持つ事が大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋「行政」は何をしているところ？
02	現代社会と教育・保育①－現代の教育・保育システムとその特徴
03	現代社会と教育・保育②－これまでの教育行政の役割
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	我が国の教育行政システム③－教育行政と保育行政の関係性
07	諸外国における教育行政システム①－中央教育行政と地方教育行政の関係構造
08	諸外国における教育行政システム②－教育・保育の課題と行政の役割
09	具体的な教育政策を見てみよう①－日本（国・地方）
10	具体的な教育政策を見てみよう②－諸外国（国・地方）
11	変化する教育行政システム
12	教育行政の現代的役割と課題①-教育財政と学校経営
13	教育行政の現代的役割と課題②－教育者・保育者の専門性向上と行政
14	教育行政の現代的役割と課題③－子どもたちへの総合的な支援と行政
15	本授業のまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:多文化共生研究特論	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 現代社会において学ぶことの意味について考えることを授業目的とする。教育を狭義の学校教育に絞り込まず、広義にとらえて家庭、社会の場における教育や学ぶことの意味について検討する。これによって現代社会において自らがどう生きるかについても考えていく授業とする。
授業の到達目標 社会の様々な分野に焦点を当て、基礎知識としての簡易講義(教員)、学生の発表、自由討論、意見交換を経て発表者にその回の授業をまとめてもらいます。それらの積み上げで、現代社会の様々な分野に幅広く光を当てる視野を身につけることを目標といたします。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 新聞を読み、ニュースを見て、世の中の動きを把握する。
評価方法 ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30%

教科書	参考図書
なし	図書館教員指定図書[髙橋]の本

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。

01	授業概要　クラス編成
02	家族と家庭
03	笑いとユーモア
04	法律と道徳
05	公害～ケーススタディ 水俣病
06	学歴 競争社会 平等
07	危機管理
08	親友 友情
09	戦争と平和
10	契約
11	愛 恋愛
12	勤労 職業
13	奉仕 ボランティア
14	公共性と倫理
15	ネット社会　　全体のまとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:発達心理学特論	担当者:小川 絢子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの心理を多面的に深く理解するための講義です。本講義では、乳幼児の発達に関する諸研究の成果をふまえつつ、保育者としての子ども理解をより深めていきます。加えて、実践記録の読み合わせ、実習のエピソード発表や子どもの発達を踏まえた指導案の作成・発表などを行い、子どもの発達についての理解をいかに保育実践と結びつけていくかを検討していきます。

授業の到達目標
本授業の目標は以下の3点です。乳幼児期の心身の発達を専門的に理解し、人に説明できる力をつける。乳幼児期の発達と保育実践を結びつけて理解する。さらに、これらの理解を自分の保育にどう活かすかを考察する力を養っていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業で紹介する実践記録を読んでおきましょう。週1回、15分程度が望ましいです。また、発表の資料作成の時間が1時間程度必要です。事後学修としては、授業で得た子どもの発達に対する理解やそれをふまえた保育実践について、人に話してみる機会を持つとよいと思います。

評価方法
期末レポート（70%)、授業参加態度（15%)、プレゼンテーション（15%)から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、期末レポートの提出資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション
02	乳児期①― 乳児期の認知発達と対人関係の変化
03	乳児期②― 0歳児の発達と生活・遊び
04	乳児期③― 0歳児の発達を踏まえた実践を考える
05	幼児期前半①―乳児期から幼児期へ― 1歳半の節における認知発達と対人関係の変化
06	幼児期前半②―1歳児の発達と生活・遊び
07	幼児期前半③―1歳児の発達を踏まえた実践を考える
08	幼児期前半④― 2歳児の発達と生活・遊び
09	幼児期前半③― 2歳児の発達を踏まえた実践を考える
10	幼児期後半①―幼児期後半へ― 3歳から5歳の認知発達と対人関係の変化
11	幼児期後半②― 3歳児の発達と生活・遊び
12	幼児期後半③― 4歳児の発達と生活・遊び
13	幼児期後半④― 5歳児の発達と生活・遊び
14	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える1
15	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える2
16	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える3

2020年度シラバス

科目名:保育者特論	担当者:小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　保育科での2年間の学びを自分なりに整理して、資格有しながら保育現場で実習を続ける意味について、保育実践や事例あるいは先行研究や文献、保育に通ずる様々な分野から考える。考え方の幅や視野を広げ、あらゆるモノやコトが保育に通じていることを体験的、実践的に学ぶようにし、理論と実践を結び付けて考えを深めることができるようにする。【AL】

授業の到達目標
　教諭免許・保育士資格を有する者として、保育における保育者の専門性とは何か、自分の考えを述べることができるようにする。また、保育の現代的課題について関心を深めることや、様々な分野に目を向けることができるようにするなど、保育と向き合うための姿勢や考え方を確立できるようにする。その中で、自分の保育観をさらに磨くようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育者の役割や専門性について、さらに調べを進めるようにする。また、保育に関する研究論文や文献に興味関心を深め、読み解くことができるように、何回も読むようにする。自分の考えを簡潔にまとめ発表できるように準備する。

評価方法
授業最後のまとめレポート（40%）授業への参加態度・グループ活動と発表（40%）　提出物（20%）

教科書	参考図書
資料を適宜配布する。	幼稚園教育要領・保育所保育指針・　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループ活動に積極的に参加することを期待する。

01	保育者特論で何を学ぶのか
02	保育者になるとは
03	保育とは何か
04	保育者を論ずる視点
05	保育を考える視点
06	保育者に必要な資質と専門性
07	保育の計画　　なぜ、保育に計画は必要か
08	保育の計画と実践　　保育をデザインしてみよう
09	自分が目指す保育の実現に向けて
10	乳児、1歳以上3歳未満児の保育のデザイン
11	3歳以上児の保育のデザイン
12	保育者としての自らへの問い
13	保育の現実的課題①　ディスカッション
14	保育の現実的課題②　ディスカッション
15	まとめと振り返り
16	なし

2020年度シラバス

科目名:幼児と環境特論	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育園での実務経験を踏まえ、問題意識を持ち乳幼児が育つ環境をとらえるための視点について具体的に学ぶことができるようにする【AL】

子どもの主体的な学びに繋がる遊びの環境について、知識を深める。そのうえで、子どもを取り巻く環境の今日的課題について目を向け、保育者として社会人として求められる知識、行動について考えを深める。

授業の到達目標
・保育所保育指針　保育内容「環境」についてより具体的に理解する。
・子どもの遊びの環境について、理解する。
・子どもが育つ環境に関する今日的課題を正しく理解し、考えを深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・実習で子どもが主体的に環境にかかわって遊んでいる場面を観察し、記録すること。
・子どもの遊び環境に関する先行研究や文献を積極的に読むこと。
・子どもに関する新聞記事に目を通すこと。
・事前事後レポートに積極的に取り組むこと。

評価方法
授業への参加態度・討議への参加態度30％ 、課題レポート40％、発表・レポート30％

教科書	参考図書
授業内で指定	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもが育つ環境に関する新聞記事等に目を通すこと。

01	子どもが育つ今の社会について考える
02	保育内容「環境」について
03	子どもとあそび（日本の遊びの原風景）
04	子どもとあそび（子どもに必要な空間）
05	子どもとあそび（世界の子どもの遊び空間）
06	子どもとあそび（社会の変化とあそび空間の変化）
07	子どもとあそび（子どもに必要な遊び空間を考える）
08	社会の中の子ども
09	社会の中の子ども
10	社会の中の子ども
11	子どもが育つ環境を考える
12	子どもが育つ環境を考える
13	子どもが育つ環境を考える
14	子どもが育つ環境を感がる
15	子どもの育つ環境について　発表　レポート
16	

2020年度シラバス

科目名:幼児と言葉特論	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。授業内では実際に言葉遊びをグループで体験したり、発表しあうことで、子どもが感じるであろう楽しさを理解し、それを保育や子ども理解へ繋げられるようにする【AL】
授業の到達目標 1、言葉の機能や意義を理解する。 2、言葉に対する感覚を豊かにするための実践について理論・技術を身につける。 3、児童文化財について理解を深める。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 日常生活に溢れる言葉に関心を持つようにしてください。授業内で学んだことは復習し、わからないことは整理しておきましょう。また、学んだ内容について授業後も情報を集めるなどして、自分の考え・知識を深めるようにしてください。
評価方法 授業態度10%、授業内課題50%、確認テスト30%、グループワーク参加状況10%

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業オリエンテーション、言葉とは何か考える
02	子どもの言葉の発達過程
03	言葉の美しさ・楽しさを感じよう―絵本と言葉―
04	子どもと言葉遊び（1）言葉を集める
05	子どもと言葉遊び（2）オリジナルの物語を作る
06	子どもと書き言葉
07	日本語の面白さ　―オノマトペの魅力―
08	言葉に対する感覚を豊かにする経験について考える・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容特演（環境）	担当者:橋村 晴美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　ひとは様々な環境に直接働きかけ、そこから答えを受け取るという相互関係を通して発達を遂げている。本科目では、幼児期の思考、科学的概念の発達、身近な環境へのかかわりの発達などについて、保育と関連づけけて考えていけるよう、実際に子どもの気持ちになって体験活動を行う。主な取り組みとしては、自然環境や社会環境を体験するためのワークショップや観察形式の活動を実施していく。

授業の到達目標
　子どもの身近にある環境に基づき、保育・教育のために臨機応変に提案できる知識と実践力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育内容領域「環境」を熟読しておく。
・日々の生活の中で、自分のおかれた環境を客観的に捉える。
・その環境の中で、子どもの興味・関心がどのようなところにあるのか、意識を向ける。

評価方法
小テスト　30%
確認テスト　70%

教科書	参考図書
随時資料を配布する	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
環境に関する書籍を１冊は通読しておく。

01	幼児を取り巻く環境とその課題
02	発達における環境とのかかわり（１）能動性・好奇心・有能感とはなにか
03	発達における環境とのかかわり（２）アフォーダンス
04	乳幼児期の認知的発達　思考力と幼小接続
05	乳幼児期の数量・図形とのかかわり（１）事例を通して考える
06	乳幼児期の数量・図形とのかかわり（２）体験を通して考える
07	乳幼児の自然とのかかわり（１）天象と気象・生物季節・行事
08	乳幼児の自然とのかかわり（２）自然物とかかわる
09	乳幼児の自然とのかかわり（３）生き物とかかわる
10	乳幼児の文字とのかかわり（１）事例を通して考える
11	乳幼児の文字とのかかわり（２）体験を通して考える
12	乳幼児の情報・施設とのかかわり
13	保育者としての質の向上：子どもの疑問について考える
14	環境と自然：生命尊重と生物多様性保全
15	まとめ　確認テスト
16	なし

科目名:保育内容特演（言葉）	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法

【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では幼児期における言葉の獲得と応用の関係を学ぶと共に、様々な文学作品をテキストに【言葉】が持つ本質的な内実と可能性についてより深く学び、幼児と言葉の緊密な関係性の中心にあるものを習得する。

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。
③　①②で習得した内容を基に保育現場での実践力について深く学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。②幼児向けの文学作品の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。

評価方法
課題20%。レポート80%の割合で評価する。

教科書	参考図書
毎回、プリントを用意する。	『保育内容・言葉』（同文書院）『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス）『宮沢賢治全集6』(筑摩書房)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①系統的な講義なので欠席をしないように心がける。②講義におけるマナーを遵守する。

01	オリエンテーション・【言葉】とは何か。
02	「子どもの言葉と育ち」①『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。
03	「子どもの言葉と育ち」②『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。
04	「子どもの言葉と保育者」①『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。
05	「子どもの言葉と保育者」②『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。
06	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」①『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス）
07	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」②『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス）
08	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」③『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス）
09	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」①『泣いた赤鬼』をテキストに使用。
10	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」②『桃太郎』をテキストに使用。
11	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」③『双子の星』をテキストに使用。
12	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」④『注文の多い料理店』をテキストに使用。
13	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」⑤『よだかの星』をテキストに使用。
14	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」⑥『雨二モ負ケズ』をテキストに使用。
15	講義のまとめ
16	なし

科目名:幼児音楽特演Ⅰ	担当者:近藤 茂之	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
短大で学んだ基礎技能をもとに、さらなる音楽性および表現能力の向上を目指す。受講人数によって多少方法が異なるが、個人またはグループによる表現、発表を行う。

授業の到達目標
人前で表現することに慣れる。そのためには、どのような準備と工夫が必要であるか、考える力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
演奏だけでなく楽譜を記すための基本的な音楽理論を再確認する。有資格者であるので、いつ現場に出ても通用するように、常に弾き歌いのレパートリーをキープしておくこと。当然ながら、全て暗譜である。

評価方法
授業への参加・取り組み40%　発表60%（子どもの歌をつくろう30%・連弾30%）

教科書	参考図書
特になし	その都度紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短大授業とは異なり、学生個々の目指す音楽表現について、自身の進路に必要な技術とは何かについて考えることが肝要である。また、与えられた課題については自己の能力の限界に常に挑み続けること。

01	授業ガイダンス（概要の説明）
02	子どもの歌をつくろうⅠ
03	子どもの歌をつくろうⅡ
04	子どもの歌をつくろうⅢ
05	子どもの歌をつくろうⅣ
06	子どもの歌をつくろうⅤ
07	子どもの歌をつくろうⅥ
08	子どもの歌をつくろうⅦ
09	子どもの歌をつくろうの発表
10	連弾をしようⅠ
11	連弾をしようⅡ
12	連弾をしようⅢ
13	連弾をしようⅣ
14	連弾をしよう　リハーサル
15	連弾発表会
16	

科目名:幼児音楽特演Ⅱ	担当者:近藤 茂之、桐生敬子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
短大で学んだ基礎技能をもとに、さらなる音楽性および表現能力の向上を目指す。受講人数によって多少方法が異なるが、個人またはグループによる表現、発表を行う。

授業の到達目標
人前で表現することに慣れる。そのためには、どのような準備と工夫が必要であるか、考える力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
演奏だけでなく楽譜を記すための基本的な音楽理論を再確認する。有資格者であるので、いつ現場に出ても通用するように、常に弾き歌いのレパートリーをキープしておくこと。当然ながら、全て暗譜である。

評価方法
授業への参加・取り組み40%　発表60%（子どもの歌をつくろう30%・連弾30%）

教科書	参考図書
特になし	その都度紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短大授業とは異なり、学生個々の目指す音楽表現について、自身の進路に必要な技術とは何かについて考えることが肝要である。また、与えられた課題については自己の能力の限界に常に挑み続けること。

01	授業ガイダンス（概要の説明）
02	子どもの歌をつくろうⅠ
03	子どもの歌をつくろうⅡ
04	子どもの歌をつくろうⅢ
05	子どもの歌をつくろうⅣ
06	子どもの歌をつくろうⅤ
07	子どもの歌をつくろうⅥ
08	子どもの歌をつくろうⅦ
09	子どもの歌をつくろうの発表
10	連弾をしようⅠ
11	連弾をしようⅡ
12	連弾をしようⅢ
13	連弾をしようⅣ
14	連弾をしよう　リハーサル
15	連弾発表会
16	

2020年度シラバス

科目名:幼児造形特演Ⅰ	担当者:高田　吉朗	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 図画工作というのは、感覚と思考を豊かにするその土台を開発する役割があると考えられます。本講では幼児の発達段階に即した造形表現を立案できる能力を育成することを目標としその指導方法を検討する。
授業の到達目標 短大時の造形技術や表現を基礎にして、よりステップアップした質の作品を作り上げる。 既に実習を経験し有資格者として保育現場に即した作品を作り上げる。 幼児の造形に留まらず、将来に繋がる芸術感覚を広く身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 制作を進めるうえでの計画性と応用性を日常から心掛けること。 展覧会などに足を運び、作品に触れ感性を磨く。
評価方法 作品の評価50%、出席状況を含めた受講態度50%

教科書	参考図書
特になし	テーマに合わせて紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) お互いの作品を鑑賞し参考にしたり指導方法を検討したり出来るように心掛ける。

01	ガイダンス・アートリテラシー（子供の表現に潜むもの）
02	保育教材作り（計画・制作）
03	保育教材作り　（制作）
04	保育教材作り（制作）
05	保育教材作り（制作）
06	保育教材作り（制作）
07	焼き物風鈴作り
08	焼き物風鈴作り
09	子どもの姿を描く
10	子どもの姿を描く
11	夏祭りの造形
12	夏祭りの造形
13	夏祭りの造形
14	夏祭りの造形
15	夏祭りの造形
16	まとめ

2020年度シラバス

科目名:幼児造形特演Ⅱ	担当者:高田　吉朗	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
図画工作というのは、感覚と思考を豊かにするその土台を開発する役割があると考えられます。本講では幼児の発達段階に即した造形表現を立案できる能力を育成することを目標としその指導方法を検討する。

授業の到達目標
短大時の造形技術や表現を基礎にして、よりステップアップした質の作品を作り上げる。 既に実習を経験し有資格者として保育現場に即した作品を作り上げる。 幼児の造形に留まらず、将来に繋がる芸術感覚を広く身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
制作を進めるうえでの計画性と応用性を日常から心掛けること。 展覧会などに足を運び、作品に触れ感性を磨く。

評価方法
作品の評価50%、出席状況を含めた受講態度50%

教科書	参考図書
特になし	テーマに合わせて紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
お互いの作品を鑑賞し参考にしたり指導方法を検討したり出来るように心掛ける。

01	ガイダンス・アートリテラシー
02	保育教材作り（計画・制作)
03	保育教材作り　(制作)
04	保育教材作り（制作)
05	保育教材作り（制作)
06	保育教材作り（制作)
07	焼き物風鈴作り
08	焼き物風鈴作り
09	子どもの姿を描く
10	子どもの姿を描く
11	夏祭りの造形
12	夏祭りの造形
13	夏祭りの造形
14	夏祭りの造形
15	夏祭りの造形
16	まとめ

科目名:幼児体育特演Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシー1(理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連している。授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目を履修する場合は、「幼児体育特演II」も履修することが望ましい。

授業の到達目標
１．乳幼児の運動発達を理解する。
２．乳幼児が様々な運動を経験するための環境を構成できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　実践への取り組み状況（30%）、提出物（40%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。

教科書	参考図書
適宜資料を配付する	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	現代の子どもの体力・運動能力，外遊びの重要性
02	乳幼児期の運動発達
03	遊び環境の構成、安全面への配慮
04	低年齢児の運動面の発達と健康課題
05	就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成①
06	就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成②
07	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児体育特演Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシー1(理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連している。授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目の受講に当たっては、「幼児体育特演I」が必須である。

授業の到達目標
１．子どもが達成感を味わえるような援助ができるようになる。
２．運動遊びの計画、実践、評価、再計画、改善ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　実践への取り組み状況（30%）、提出物（40%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。

教科書	参考図書
適宜資料を配付する	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方
02	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第1回）
03	第1回実践の振り返りと次回の準備
04	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第2回）
05	第2回実践の振り返りと次回の準備
06	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第3回）
07	第3回実践の振り返り
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容総論特演	担当者:吉田 真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業では、ディプロマポリシーにある、保育と子育てに関する高度な専門知識と実践的技能の修得に関連し、保育と子育ての専門家に必要な子どもの命を守る事故予防についての学びを深める。レポート発表やプレゼンテーションを通し、グループでの討議を行い、専門的知識を修得する。
授業の到達目標 園内で起こる深刻な事故はなぜ起こるのかを学び、深刻な事故を予防する視点を身に付ける。また、事故予防に必要な園内コミュニケーションや保護者とのコミュニケーションの在り方を理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 日頃からニュースや新聞記事等に関心をもち、園内及び園外保育等で起きた深刻な事故について、情報を得るようにし、授業での学びと結び付けて考えるようにする。
評価方法 授業の参加態度・授業の振り返り（30%）　レポート発表（40%）　テスト（30%）

教科書	参考図書
子どもの「命」の守り方　エイデル研究所	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション　保育における「安全」をめぐって
02	「深刻さ」を的確に把握するための視点①
03	「深刻さ」を的確に把握するための視点②
04	保育施設におけるリスク・コミュニケーション①
05	保育施設におけるリスク・コミュニケーション②
06	グループワーク
07	グループワーク
08	すべての基礎、園内コミュニケーションをつくる①
09	すべての基礎、園内コミュニケーションをつくる①
10	リスクを伝え、保護者と園のリスク意識を育てる
11	グループワーク
12	グループワーク
13	事故予防に取り組むことのむずかしさを理解しよう
14	事故予防に取り組むための基礎を知ろう
15	ハザードをみつけ、効果的な対策を立てよう
16	まとめと確認テスト

科目名:学修総まとめ	担当者:保育科教員	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する保育の専門家を目指し、４年間の学修を総括するための学修総まとめ科目です。これまでの授業等で学んだ成果はもとより、自らの経験や実習、調査した学修全体の省察をします。具体的には、指導教員の指導のもと、自ら取り組むテーマに基づき学修・探求を行い論文を作成します。その過程において、中間発表会を実施し、論文作成のための「履修計画書」を作成した上で、論文を完成させ、ポスター発表形式の口頭試問を実施し、「成果の要旨」としてまとめていきます。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用し、論文の成果をもって授業に相当する場合もあるものとします。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
１　学修の総まとめとして論文を計画、立案、作成することで保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
２　学士課程教育に相当する４年間の学修成果を総括することで思い描く保育者像を描くことができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
論文35%、中間発表会15%、口頭試問（ポスター発表形式）20%、授業参加点30%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
授業時に指示します	授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、短期大学等の２年間と専攻科における２年間で学んだすべての学修成果を論文にまとめることを目指します。担当教員の指導を受けながらさまざまな科目と関連づけて学修を進め、質問等はオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション）
02	論文のテーマと構成の再確認（１）はじめに等
03	論文のテーマと構成の再確認（２）章立て等
04	論文のテーマと構成の再確認（３）文献等
05	論文の中間発表会の準備（１）論文添削
06	論文の中間発表会の準備（２）論文修整
07	論文の中間発表会の準備（３）論文下書き
08	論文の中間発表会と質疑応答
09	論文の中間発表会の反省と修正（１）点検
10	論文の中間発表会の反省と修正（２）修整
11	論文の中間発表会の反省と修正（３）加筆
12	論文の「履修計画書」の立案
13	論文の「履修計画書」の作成
14	論文の「履修計画書」の完成
15	前期のまとめ
16	文献・先行研究のまとめ（１）前半
17	文献・先行研究のまとめ（２）後半
18	保育（教育）実習のまとめ（１）前半
19	保育（教育）実習のまとめ（２）後半
20	保育（教育）実習のまとめ（３）全体
21	論文全体の構築とまとめの作成
22	論文全体の構築とまとめの完成
23	学修総まとめの論文の確認
24	学修総まとめの論文の完成
25	口頭試問の準備・質疑応答の対策
26	ポスター発表形式の口頭試問の実施
27	口頭試問の反省
28	学修総まとめの「成果の要旨」作成
29	学修総まとめの「成果の要旨」完成

30	総括
31	なし

2020年度シラバス

科目名:学ぶことと現代（非開講）	担当者:髙橋 一郎	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代社会において学ぶことの意味について考えることを授業目的とする。教育を狭義の学校教育に絞り込まず、広義にとらえて家庭、社会の場における教育や学ぶことの意味について検討する。これによって現代社会において自らがどう生きるかについても考えていく授業とする。

授業の到達目標
社会の様々な分野に焦点を当て、基礎知識としての簡易講義(教員)、学生の発表、自由討論、意見交換を経て発表者にその回の授業をまとめてもらいます。それらの積み上げで、現代社会の様々な分野に幅広く光を当てる視野を身につけることを目標といたします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞を読み、ニュースを見て、世の中の動きを把握する。

評価方法
ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30%

教科書	参考図書
なし	図書館教員指定図書[髙橋]の本

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。

01	授業概要　クラス編成
02	家族と家庭
03	笑いとユーモア
04	法律と道徳
05	公害～ケーススタディ 水俣病
06	学歴 競争社会 平等
07	危機管理
08	親友 友情
09	戦争と平和
10	契約
11	愛 恋愛
12	勤労 職業
13	奉仕 ボランティア
14	公共性と倫理
15	ネット社会　　全体のまとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:女性とジェンダー	担当者:石月　静恵	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
この授業では、ジェンダーと女性・子どもについて学びます。テキストに基づいて、日本の近現代の出来事とその中での女性・子どもの生き方の変化を理解できるようにします。講義を中心にしますが、グループ学習や個人のレポート作成なども求めます。

授業の到達目標
ジェンダーについての基本的理解を深め、ジェンダーに敏感な視点が形成できるようになることを目標にします。また、子ども自身の表現や子どもを対象とした研究が深化してきたことを学びます。20世紀になり、子どもへの見方＝まなざしが変化し、子ども自身が表現できるようになったこと、具体的には、高度経済成長や国際児童年、東日本大震災の影響を理解することをめざします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テキストを指定しますので、事前学修をしておいてください。授業外で、調査研究・レポート作成を要求します。図書館やインターネットを活用してレポート作成に取り組んだください。また、グループ発表の場合は、時間外に打ち合わせる時間をとる必要が生じるかもしれません。

評価方法
授業参加態度　20%　レポート作成・発表40%　テスト40%

教科書	参考図書
石月静恵著『子どもへのまなざし―子ども研究の歴史』文芸社、2019年	授業時に適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に知らせます。オフィスアワーは授業日の昼休みとします。

01	オリエンテーション：ジェンダーと女性・子ども
02	児童の世紀と子ども研究
03	児童文学の成立　戦前の児童向け雑誌『赤い鳥』を読む
04	『赤い鳥』の調査　小レポート①
05	『赤い鳥』「綴方」における子どもの表現
06	保育園と幼稚園の歴史
07	高度経済成長と女性労働者の増加
08	国際連合の働きと国際年の設定　グループ研究
09	国際婦人年と女性差別撤廃条約
10	国際年についてのグループ発表①
11	国際年についてのグループ発表②
12	国際児童年とユニセフの活動
13	東日本大震災と女性・子ども
14	災害と女性・子どもの問題　小レポート②
15	授業のまとめ
16	テスト

2020年度シラバス

科目名:English for Children Ⅰ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English as mentioned in the SLADE diploma policy. The aim of this course is to introduce students to various techniques and activities used when teaching English to pre-school children.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to use games, flashcards, puppets, books and songs to teach English, recognize what topics and activities are suitable, and plan & deliver classes in a professional manner.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
The class will be taught in English and students are expected to use English in class. The course uses an active learning approach. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability on a weekly basis. Since this is a two-credit class students are asked to study for 4 hours per week out of class.

評価方法
1. Weekly class attitude for participation in activities (15%) 2. Individual micro-class teaching (25%) 3. Group micro-class teaching (20%) 4. Reflection journal (20%) 5. Course reflection report (20%)

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. This course is related to the Teacher License Course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor’s permission. If students have any questions about the course please contact the teacher.

01	Course overview & explanation
02	Overview of suitable pre-school topics and vocabulary
03	Introduction to teaching aids; Teaching aids part one - flashcards and gestures
04	Teaching aids part two - games and classroom English
05	Review & practice using flashcards and gestures
06	Practice using games and classroom English
07	Teaching aids part three- puppets, songs and books
08	Practice using puppets, songs and books
09	Review
10	Individual micro-teaching preparation
11	Individual micro-teaching
12	Individual micro-teaching
13	Group micro-teaching preparation
14	Group micro-teaching preparation
15	Group micro-teaching & Reflection
16	None

2020年度シラバス

科目名:English for Children Ⅱ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English as mentioned in the SLADE diploma policy. This course introduces students to various techniques, activities and methods used when teaching English to elementary school children.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to use games, flashcards, puppets, books and songs to teach English, recognize what topics and activities are suitable, and plan & deliver classes in a professional manner.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are expected to use only English in class. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability. Students will write a weekly class reflection journal. Timely completion of homework is necessary. Since this is a two-credit class students are asked to study for 4 hours per week out of class.

評価方法
1. Weekly participation (15%) 2. Individual micro-class teaching (25%) 3. Group micro-class teaching (20%) 4. Reflection journal (20%) 5. Course reflection report (20%)

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. This course is related to the Teacher License Course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor's permission. If students have any questions about the course please contact the teacher.

01	Course overview and explanation
02	Overview of suitable elementary school English topics and vocabulary
03	Introduction of the four language skills; Introduction to listening activities & techniques
04	Practice listening activities & review
05	Introduction of speaking activities & techniques
06	Practice speaking activities & techniques
07	Introduction of reading & writing activities
08	Practice reading activities
09	Practice writing activities
10	Individual micro-class teaching
11	Individual micro-class teaching; Review
12	Group micro-class teaching preparation
13	Group micro-class teaching preparation
14	Group micro-class teaching
15	Group micro-class teaching; Reflection
16	None

科目名:子育て支援特演	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する者を目指し、これまでに学んだ専門的知識を実践に生かしていきます。そのために地域の子育て支援に関する情報収集やネットでの情報発信、施設への見学、実践への参加を経験しながら子育て支援の実践力を高めていきます。実際の授業の展開においては構内の施設（大学図書館等）や地域の子育て支援施設等と連携しながらアクティブラーニングを用いて学生が主体となって子育て支援の実践を展開します。なお、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
1　国内及び国際的な視野をもって子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解できる
2　少子化の問題やどのような子育て支援が必要であるか説明することができる
3　地域の子て支援活動について、支援する者の資質や具体的な支援方法を考えて実践することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、次回の授業前に課題を出します。その課題を次回授業までに作成して下さい。さらに、実践活動においては、そのための事前準備を主体的に実施して下さい（授業毎に２時間）。事後学修においては、授業で学んだ事を実践に生かす話し合いをグループで実施すること。実践後には、振り返りで反省会等を各グループで実施して下さい（授業毎に２時間）。

評価方法
授業・実践活動への参加態度や提出物を70%、最後のレポート30%を目安として総合的に評価します。なお、なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

教科書	参考図書
授業中に指示します	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は学生自身がアクティブに取り組むことが要求されます。教員が指示するよりも、与えられた課題について主体的に取り組んで下さい。必要な課題があればmoodleへ提示します。適宜参照して下さい。なお、質問等は授業の前後やオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）とし、連絡先は授業時に開示します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります
03	企業・NPOなどによる地域の子育て支援活動
04	図書館などによる地域の子育て支援活動
05	多様なメディアを用いた子育て情報の提供
06	地域の子育て支援活動の見学
07	地域の子育て支援活動の調査
08	地域の子育て支援の実践（１）テーマの設定　※構内もしくは地域の施設を利用して実践します
09	地域の子育て支援の実践（２）チラシ作成と宣伝
10	地域の子育て支援の実践（３）指導案の作成
11	地域の子育て支援の実践（４）準備・製作活動
12	地域の子育て支援の実践（５）実践の展開グループ１（実践テーマ未定）
13	地域の子育て家庭の実践（６）実践の展開グループ２（実践テーマ未定）
14	地域の子育て家庭の実践（７）実践の展開グループ３（実践テーマ未定）
15	まとめとレポート提出
16	なし

科目名:保育研究法Ⅰ	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指定する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	オリエンテーション、年間の授業の流れの説明
02	研究テーマの設定の仕方
03	研究方法の種類と用い方（１）
04	研究方法の種類と用い方（２）
05	資料収集の方法（１）
06	資料収集の方法（２）
07	資料分析の方法（１）
08	資料分析の方法（２）
09	アンケート調査の方法
10	アンケート調査の統計処理
11	グラフ・表の書き方
12	論文全体の構成の作り方
13	論文全体の構成案の作成
14	実践記録の事例収集
15	実践記録の読み方とまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅰ	担当者:小栁 雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、保育をより科学的、理論的に追求していけるようになるために学習します。日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねるための能力を培うことが目標です。
そのために、受講生自身の研究課題を発表・提案し、受講生による相互講評や討議を実施します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していくこととします。

授業の到達目標
①学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
②過去の保育研究や実践記録を読み解き、保育研究の在り方を探究することができる。
③保育特別実習での振り返りなどを基に、自らの研究のあり方について検討することができる。
以上３点を、本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育研究をするという視点をもって、積極的に文献を収集し、読み解くこと。また質問紙調査をはじめとする調査方法を探求する。また、科学的・理論的に保育を追求するために、保育実習において実践の記録をしっかりと残しましょう。実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力してください。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における討議などの取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価します。

教科書	参考図書
特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。	幼稚園教育要領H29告示　保育所保育指針H29告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領H29告示　他

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	オリエンテーション－授業の流れ＆２年間の論文作成に関わるスケジュールの説明
02	研究テーマの設定の仕方
03	研究方法の種類と用い方（１）
04	研究方法の種類と用い方（２）
05	資料・文献収集の方法（１）
06	資料・文献収集の方法（２）
07	資料・文献分析の方法（１）
08	資料・文献分析の方法（２）
09	アンケート調査やインタビュー調査の方法
10	調査結果の統計処理
11	グラフ・表の書き方
12	論文全体の構成の作り方
13	論文全体の構成案の作成
14	実践記録の事例収集
15	実践記録の読み方とまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書 特になし	参考図書 授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	実践記録の分析評価
02	実践記録を保育に生かすには（１）
03	実践記録を保育に生かすには（２）
04	実践記録のとり方（１）
05	実践記録のとり方（２）
06	実践記録を実際にとる（１）
07	実践記録を実際にとる（２）
08	実践記録の検討（１）
09	実践記録の検討（２）
10	保育内容の検討（１）
11	保育内容の検討（２）
12	保育内容指導法の検討（１）
13	保育内容指導法の検討（２）
14	保育環境構成と教材研究
15	全体のまとめ
16	なし

科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では保育者として当然身に付けなければならない言語感覚と操作能力のスキルを学ぶ。様々な文章をテキストに【言葉】が持つ本質的な内実と可能性を自ら発見す力を習得する。

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。
③　①②で習得した内容を基に保育現場でのより錬磨された実践力について深く学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。②幼児向けの文学作品の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。③日記等を書く習慣を通じて言語操作能力を高める。

評価方法
課題20%。レポート80%の割合で評価する。

教科書	参考図書
毎回、プリントを用意する。	『こどもとことば』『未来のだるまちゃんへ』『新島襄と建学の精神』『大教育者の言葉』他。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①系統的な講義なので欠席をしないように心がける。②講義におけるマナーを遵守する。

01	言葉と文章についてのガイダンス
02	テキストの味読とディスカッション①『子どもとことば』
03	テキストの味読とディスカッション②『子どもとことば』
04	テキストの味読とディスカッション③『子どもとことば』
05	テキストの味読とディスカッション④『子どもといっしょに読みたい詩』
06	テキストの味読とディスカッション⑤『子どもといっしょに読みたい詩』
07	討論会「言葉の力」
08	テキストの分析とディスカッション①『大教育者の言葉』
09	テキストの分析とディスカッション②『大教育者の言葉』
10	テキストの分析とディスカッション③『大教育者の言葉』
11	テキストの分析とディスカッション④『大教育者の言葉』
12	テキストの分析とディスカッション⑤『大教育者の言葉』
13	テキストの分析とディスカッション①『未来のだるまちゃんへ』
14	テキストの分析とディスカッション②『未来のだるまちゃんへ』
15	講義のまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅰ	担当者:吉田 真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
この授業では、幼稚園での経験を踏まえ、幼児に対する絵本の読み聞かせや紙芝居実演など、実践的な知識とスキルを修得できるようにする。
子どもの文化（絵本、紙芝居）に触れ、知識を深めるとともに、効果的な実演方法を学ぶ。また、グループ討議やプレゼンテーション等を通して保育者に必要な指導能力、判断力を身に付ける。

授業の到達目標
この授業では、ディプロマポリシーにある、保育と子育てに関する高度な専門知識と実践的技能の修得に関連し、保育実践において重要な子どもの文化について理解するとともに、発表等を通して豊かな表現力および実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から絵本や紙芝居などの子どもの文化に関心をもち、触れるようにする。また、保育ボランティアや実習などで、積極的に絵本の読み聞かせや紙芝居実演などの実践を行い、省察する。

評価方法
授業への参加態度・授業の振り返り（３０％）　課題・発表（３０％）、まとめのレポート（４０％）

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	絵本の読み聞かせ（民衆社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業では自分の意見を積極的に発表していってください。

01	授業オリエンテーション
02	絵本入門１
03	絵本入門２
04	絵本入門３
05	絵本リスト作成、指導案を書いてみよう
06	グループワーク①　－読み聞かせの実践－
07	グループワーク②　－海外の絵本－
08	紙芝居入門　－DVD視聴－　　演じ方の基本を知ろう
09	紙芝居の選定と指導案
10	紙芝居の理論と実践１
11	紙芝居の理論と実践２
12	大型紙芝居の実演
13	紙芝居の理論と実践３
14	紙芝居の理論と実践４
15	まとめとレポート
16	

2020年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅰ	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 オーストラリアでの学びをもとに、国内での保育において異文化や英語をどのように扱っていくべきかについて、グループワークやディスカッション、調査・見学などを行いながら考えを深めていく。また、後期の「保育の理論と実践Ⅱ」では実際に実践も行うため、そのために必要な知識・技術の習得を目指す。【AL】
授業の到達目標 1、これまで身に付けてきた理論や発想をもとに、保育実践について具体的に考え発表することができる。 2、国内における異文化理解・英語学習に関する知識と実践力を身に付ける。 3、保育の計画や事例を読み解くなどして、保育の研究の在り方を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業内での発表に向けての準備や資料作成を個人またはグループで行う。
評価方法 授業態度10%　各授業での発表・課題60%　グループワークへの取り組み30%

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	オリエンテーション、授業全体の流れの確認
02	オーストラリアで参加した保育実践の内容を分類する
03	実践事例から学ぶ
04	日本における異文化理解・英語教育について（1）
05	日本における異文化理解・英語教育について（2）発表準備
06	日本における異文化理解・英語教育について（3）発表
07	児童文化財と英語（1）教材研究
08	児童文化財と英語（2）課題発表
09	小学校での外国語学習とのつながりを知る
10	保育計画を立案する
11	実践見学（1）
12	実践見学（2）
13	実践見学報告会
14	未就学児の英語教育について考える
15	授業全体のまとめ・確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅱ	担当者:杉山 実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 オーストラリアでの学びをもとに、幼児が英語を楽しむ活動をグループで展開する。実践を通して、海外での学びを保育に活用する力を養うとともに、実践に関するPDCAを通して実践力を育成する。【AL】
授業の到達目標 1　英語による課外プログラムの企画・立案・準備において、これまでに身に付けた理論や発想を具体化することができる。 2　課外プログラムを通して実践力を身に付ける。 3　実践の省察を通してよりよい実践のために必要な技術・理論・視点に気付き、新しい企画を構想することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 1　海外研修での学びを基盤に、国内の保育にも積極的に情報を集めること。 2　課外プログラムの実施に向けて、授業内以外にもグループで必要な準備や話し合いを行うこと。
評価方法 授業態度10%　実践50%　課題40%程度として総合的に評価します。

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業オリエンテーション
02	実践準備（1）
03	実践準備（2）
04	実践リハーサル
05	実践（1）
06	実践の反省・次回リハーサル
07	実践（2）
08	実践の反省・次回リハーサル
09	実践（3）
10	実践の反省・次回リハーサル
11	実践（4）
12	実践の反省・全体の振り返り
13	子どもと異文化・外国語の関係について考える
14	多文化共生と保育
15	授業のまとめ・確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅱ	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、実務経験を活かし、保育の方法や内容に関する知識と保育の実践の場での保育技術・計画的保育を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

保育現場での実践で感じていることや疑問に思ったことを文献から学んだり、グループで討議したりしながら考えを深める。保育者として自分の姿を振り返り考える力を養う。計画的な保育実践をする必要性について学ぶ。

授業の到達目標
・保育や保育者について知識を深める
・領域別の内容について理解を深め、計画に基づく保育実践を考える。
・

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育実習におけるエピソードや事例を整理して、疑問や課題についてまとめておくこと。
保育実践でしてみたいことを事前に考え、調べておくこと。

評価方法
授業やグループ活動への参加態度（３０％）　保育実践や課題発表（４０％）レポート（３０％）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業について
02	保育者の職業倫理について考える
03	保育者の専門性とは①
04	保育者の専門性とは②
05	子どもをどう見るのか①（エピソードから考える）
06	子どもをどう見るのか②（エピソードから考える）
07	子どもをどう見るのか③（事例のまとめ）
08	計画に基づく保育実践①
09	計画に基づく保育実践②
10	計画に基づく保育実践③
11	計画に基づく保育実践④
12	計画に基づく保育実践⑤（実践からの学びのまとめ）
13	保育者の成長とは
14	理想の保育をするために
15	まとめ　レポート
16	

2020年度シラバス

科目名:障害児福祉特論	担当者:川上 知幸	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）が推進される我が国社会において、身体や発達に障害を抱える子どもが住み慣れた地域で生き生きと生活するために、支援者にもとめられる資質や知識、技術を総合的に理解することを目的とする。

授業の到達目標
①□障害児の支援に関する基礎的知識、技術について理解し、支援者として実践できる。
②□障害児の家族のニーズの把握とソーシャルワークを実践できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①□施設ボランティア及び障害児施設、病児保育のボランティア等に積極的に参加する。
②□我が国における障害児施策の現状と課題については自ら進んで情報を得て、理解に努めること。

評価方法
確認テスト（40%）、レポート（30%）、受講態度および振り返りシート（30%）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
無し	授業中に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
障害児やその家族が抱える生活上の困難を積極的に理解するように努めてください。ボランティア、施設見学などは積極的に行ってください。自らの興味・関心に基づき、1回以上の障害児施設の施設見学を推奨します。

01	オリエンテーション
02	児童の権利擁護、「障害」の捉え方
03	障害の理解：発達障害①
04	障害の理解：発達障害②
05	障害の理解：アタッチメント（愛着）障害①
06	障害の理解：アタッチメント（愛着）障害②
07	障害の理解：精神障害、知的障害
08	障害の理解：身体障害、視覚障害
09	施設福祉、在宅福祉の現状と課題
10	養育者、保育者の不適切な関わりと施設内虐待
11	障害児の家族に対する支援と課題
12	事例①
13	事例②
14	障害児と家族への「切れ目のない支援」とは
15	総まとめと確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:乳児保育特論	担当者:青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、実務経験を活かし、乳児保育を実際に運営するために必要な基礎的な知識と乳児保育の実践の場を作るための保育技術を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

乳児保育の基本的理解を土台として、乳児保育の実践に必要な知識を深め、発達に沿った柔軟で具体的な保育内容を構成する力を養う。

授業の到達目標
・乳児期の発達の特徴を踏まえた乳児保育の重要性について理解を深める。
・様々な考え方や保育方法を知り、柔軟に判断する力を身に付ける。
・乳児保育を進める上で必要とされる環境を構成する力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育に関するニュースや記事等の情報に目を通すこと。
グループ活動に必要な準備学修や資料の収集を行うこと。

評価方法
グループ活動への参加態度（30%）　提出物・発表（４0%）　レポート（30%）

教科書	参考図書
なし。適宜配布する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳児保育の現状と課題
02	乳児期の発達
03	乳児の生活　食事や排せつの援助
04	乳児の生活　着脱　お片付け
05	乳児の生活　生活リズムへの配慮
06	乳児のこころ　愛着形成
07	乳児のこころ　泣きの意味
08	乳児のこころ　困り行動の意味
09	乳児と遊び　周囲への目
10	乳児と遊び　やってみようとする気持ち
11	乳児と遊び　心を通い合わせる喜び
12	安全な乳児保育
13	保護者とのかかわりと連携
14	乳児保育のこれからを考える
15	まとめ　レポート
16	

2020年度シラバス

科目名:海外保育研修	担当者:新沼 英明・平野朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限: 専攻科留学タイプの学生に限る		単位数	6
		必須.選択	選択

授業概要と方法
オーストラリアの教育提携校の保育コースで保育研修プログラムに参加することで、オーストラリアの保育士資格（Certificate III in Early Childhood Education and Care）の取得を目指す。渡航及び現地での生活に必要な事前学習、現地校での保育コースでの研修、帰国後の事後指導の３つを合わせて６単位を認定する。現地では、他国の学生たちと同じクラスでオーストラリアの保育を学び、資格の取得を目指していく。

授業の到達目標
オーストラリアの保育士資格取得に必要な所定の保育コースを履修していくことで、オーストラリアの保育に必要な知識、技術の習得することを目標とする。
なお、実習時間等はオーストラリアの提携校と協議の上、本学専攻科委員会で定めた時間とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本で学んだ保育の知識、技術を生かしながら、さらなる視野を広げる意味でもオーストラリアの保育について学びます。また日本とオーストラリアの保育の違いや共通点を意識することでさらに保育の専門性を高め、国際的な視野をもつことを目指します。
なお、本科目に必要な実習を通して「学修の総まとめ」の論文執筆に必要なデータ収集（文献収集、インタビュー等）を行うこととするが、その実施方法、倫理的配慮については指導教員の十分な指導を受けることとする。

評価方法
事前指導の出席状況や学習成果20%現地校の担当者による評価（保育の課題、授業参加状況、態度など）60%事後指導として課される報告書20%なお保育コース中間時に担当教員による実習訪問指導を実施し、研修プログラムへの助言と補習を行う

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、専攻科留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導教育を受けた上で、現地での保育コースでの研修に参加します。帰国後は「学修の総まとめ」（学位論文）の執筆にその経験・知見を活かしましょう。

01	渡航前：オーストラリアへ留学するための事前指導が複数回行われ、留学への準備を進める 留学時：まず語学学校にて保育コース出席に十分となる所定の語学力を満たした上で、オーストラリアの専門学校の保育コースにて学ぶ。保育コースの専門学校にて、各ユニットごとに課された所定の課題をクリアすることでオーストラリアの保育士の資格取得と海外の保育に必要な知識や技術を習得する。 事後指導：帰国後に、現地での学習の再確認と振り返りのための報告書を提出する。また別途指示する実習ノートを提出すること。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	

28	
29	
30	
31	

2020年度シラバス

科目名:情報処理特演	担当者:上原 隆司	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育の現場やそれを取り巻く環境においても、情報技術の普及が著しい。この授業では保育の場面で有用となりうる情報処理の技術をピックアップし、それらを保育者となってから使いこなしていけるための基礎を演習を通して身につけることを目標とする。また、アンケート調査などで取ったデータを処理して学位論文をまとめ、発表していくための方法についても演習を通して学ぶ。

授業の到達目標
保育の場面で活用できる情報処理技術を身につける。学位論文の執筆と発表に際して、データを適切に処理し、求められる形で文書を作成し、内容を効果的に伝えるためのパソコンの使い方を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
これまでに学んできた情報リテラシーをあらかじめ復習しておいてから授業に臨むこと。習得したことを今後保育の場面で活かせるよう、機会を見つけて復習をすること。

評価方法
授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報処理技術の習得には自らによる実践が不可欠である。グループでの作業にも積極的に参加すること。

01	ガイダンスと情報リテラシーの復習
02	表とグラフの作成
03	統計的処理の考え方と演習１
04	統計的処理の考え方と演習２
05	Wordの機能の復習と文書作成
06	論文作成のためのWordの機能の活用
07	プレゼンテーション演習１
08	プレゼンテーション演習２
09	静止画像を利用した Word の保育への応用
10	静止画像を利用した Excel の保育への応用
11	静止画像を利用した PowerPoint の保育への応用
12	パソコンを利用した制作1
13	パソコンを利用した制作2
14	パソコンを利用した制作3
15	パソコンを利用した制作4
16	なし

2020年度シラバス

科目名:子育て支援特演	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する者を目指し、これまでに学んだ知識を実践に生かしていきます。そのために地域の子育て支援に関する情報収集やネットでの情報発信、施設への見学、実践への参加を経験しながら子育て支援の実践力を高めていきます。実際の授業の展開においては構内の施設（大学図書館等）や地域の子育て支援施設等と連携しながらアクティブラーニングを用いて学生が主体となって子育て支援の実践を展開します。なお、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
1　国内及び国際的な視野をもって子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解できる
2　少子化の問題やどのような子育て支援が必要であるか説明することができる
3　地域の子て支援活動について、支援する者の資質や具体的な支援方法を考えて実践することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、次回の授業前に課題を出します。その課題を次回授業までに作成して下さい。さらに、実践活動においては、そのための事前準備を主体的に実施して下さい（授業毎に２時間）。事後学修においては、授業で学んだ事を実践に生かす話し合いをグループで実施すること。実践後には、振り返りで反省会等を各グループで実施して下さい（授業毎に２時間）。

評価方法
授業・実践活動への参加態度や提出物を70%、最後のレポート30%を目安として総合的に評価します。なお、なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

教科書	参考図書
授業中に指示します	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は学生自身がアクティブに取り組むことが要求されます。教員が指示するよりも、与えられた課題について主体的に取り組んで下さい。必要な課題があればmoodleへ提示します。適宜参照して下さい。なお、質問等は授業の前後やオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）とし、連絡先は授業時に開示します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります
03	企業・NPOなどによる地域の子育て支援活動
04	図書館などによる地域の子育て支援活動
05	多様なメディアを用いた子育て情報の提供
06	地域の子育て支援活動の見学
07	地域の子育て支援活動の調査
08	地域の子育て支援の実践（１）テーマの設定　※構内もしくは地域の施設を利用して実践します
09	地域の子育て支援の実践（２）チラシ作成と宣伝
10	地域の子育て支援の実践（３）指導案の作成
11	地域の子育て支援の実践（４）準備・製作活動
12	地域の子育て支援の実践（５）実践の展開グループ１（実践テーマ未定）
13	地域の子育て家庭の実践（６）実践の展開グループ２（実践テーマ未定）
14	地域の子育て家庭の実践（７）実践の展開グループ３（実践テーマ未定）
15	まとめとレポート提出
16	なし

科目名:保育特別実習	担当者:平野　朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。元園長の実務経験を踏まえ、学生にその専門性を深く伝授するようにし、学生それぞれが個別に実習課題を立てて臨み、理論と実践の統合に向け、自主的かつ積極的に取り組むようにする。また、学位論文作成のためのフィールドワークとしても活用できるようにし、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。

授業の到達目標
実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習に当たっては、事前に現場に役立つ保育技術や教材を研究しておくこと。実習の記録は独自の工夫で、子どもを理解すること、環境の構成について、保育者の動きや子どもとのかかわりなど、きめ細かな記録が取れるように努力すること。

評価方法
実習の中間報告 40%、実習の記録 60%

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

01	自身の研究テーマ及び研究の目的に沿って自ら選んだ実習先で週2日間の実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に実習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解し、自らも資格や免許を持っている立場で、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、仕事として保育を行うことについて、深く理解し、自分がどのような保育がしたいのか、保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深めていくことが
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

31	

科目名:保育特別実習	担当者:小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。元園長の実務経験を踏まえ、学生にその専門性を深く伝授するようにし、学生それぞれが個別に実習課題を立てて臨み、理論と実践の統合に向け、自主的かつ積極的に取り組むようにする。また、学位論文作成のためのフィールドワークとしても活用できるようにし、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。

授業の到達目標
実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習に当たっては、事前に現場に役立つ保育技術や教材を研究しておくこと。実習の記録は独自の工夫で、子どもを理解すること、環境の構成について、保育者の動きや子どもとのかかわりなど、きめ細かな記録が取れるように努力すること。

評価方法
実習の記録　100%

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

01	自身の研究テーマ及び研究の目的に沿って自ら選んだ実習先で週2日間の実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に実習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解し、自らも資格や免許を持っている立場で、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、仕事として保育を行うことについて、深く理解し、自分がどのような保育がしたいのか、保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深めていくことができるようにする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

31	

2020年度シラバス

科目名:保育特別実習指導	担当者:平野 朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的、実践的、専門的な課題をもって望む必要がある。自己の実習の記録などをもとに、課題を持ち、個人発表、集団討論などを通して、専門家としての力量を高めるようにする。また力量をアップするための教材研究を計画的に取り組む。

授業の到達目標
海外での実習という異文化の環境の中での保育実習のあり方をしっかりとらえることを目標とする。具体的には現地保育所事情、オーストラリアで実習を行うに当たっての準備、多文化主義のオーストラリアの文化的歴史的背景の知識を習得する。これらを学んだ上で現地実習を行い、保育者としての力量をアップさせる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習における服装規程など、オーストラリアでの実習についての予備知識をしっかりと得ておく

評価方法
　出発前授業、現地授業、帰国後授業を行います。　それぞれにおける授業への参加姿勢40%　授業内レポート30%　帰国後提出のレポート30%

教科書	参考図書
なし	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オーストラリア事情について様々な角度から自身で積極的に知識を得る努力をしてください

01	オーストラリアにおける実習の意義　ブルーカードの申請と取得
02	実習園への事前訪問と確定及び実習方法の検討
03	実習における長期計画の立案と共通課題の整理および自主研究課題の設定
04	オーストラリアにおける文化多元主義とは何か～保育現場との関係
05	先住民とオーストラリア～多文化主義に至った背景１
06	先住民とオーストラリア～多文化主義に至った背景２
07	子どもの遊びから幼児理解を深める　子どもの使う言語を考える
08	実習園での子どもの姿の報告　実習開始に当たっての問題点
09	保育現場の日豪比較～環境構成の比較
10	教材研究　　保育実践記録の取り方
11	環境構成の在り方：実習園の環境構成から
12	保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる
13	実習記録の報告・問題点の討議
14	教材研究の報告
15	実習記録のまとめと報告
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	

27	
28	
29	
30	
31	

2020年度シラバス

科目名:保育特別実習指導	担当者:小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的に、実践的かつ専門的な課題をもって臨む必要がある。元園長の実務経験を踏まえて、保育の記録や省察の重要性を学生に保育の実例を取り上げながら教授し、学生が自己の実習記録などを基に課題を持ちながら、専門性を高めていけるような実習ができるようにする。実習において観察した子どもの姿や、実践記録を発表して集団で討論したり、事例検討などを通して、保育の専門性や力量を向上させていくようにする。常に自分の保育と向き合って、省察して次に生かす姿勢を持つことができるようにする。

授業の到達目標
　実習における実践的かつ専門的な課題に対して、主体的に取り組み、保育への対応力が持てるようにする。また、実習における記録などを基に、実践について発表し、討論などを通して、保育観を磨き保育者像を確立していくようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　週2日間の実習を無駄にしないように、実習の実践記録などを整理し、その記録から課題や問題を見つけ出すなど、保育に向き合う姿勢を常に持っているように心がけること。実習で見つけた問題課題については、その解決策を積極的に探るようにすること。わからないときは、実習先の指導者に質問するなど、前向きに取り組むようにする。

評価方法
実践についての討論への参加の様子と発表　60%　授業中の課題・実習の振り返り　40%

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育科の実習ではないことを十分に理解して実習に取り組み、オリジナルな記録が残せるように工夫してください。

01	実習における自己研究課題の設定
02	実習園での実習の仕方についての検討
03	子ども理解の理論と方法
04	子ども理解の理論と方法
05	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討①と発表
06	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討②と発表
07	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討③と発表
08	子どもの遊び　主体的に遊ぶとは　遊びの中の試行錯誤
09	子どもの遊びの変遷
10	エピソード記述の意義と記述の方法
11	エピソード記述のまとめ方と活用方法
12	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり①
13	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり②
14	実習における記録と実践の発表
15	まとめ　実習の記録を研究に活かすために
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:学修総まとめの基礎Ⅰ	担当者:保育科教員	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
　以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
１　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
２　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
３　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。
事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書	参考図書
授業時に指示します	授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション
02	論文のテーマ検討（１）学生からテーマ報告
03	論文のテーマ検討（２）テーマの修整
04	論文のテーマ検討（３）仮テーマ決定
05	研究計画の作成（１）前期計画
06	研究計画の作成（２）後期計画
07	先行研究・事例の収集（１）著書等
08	先行研究・事例の収集（２）紀要等
09	先行研究・事例の収集（３）報告書等
10	先行研究・事例の分析と検討（１）著書等
11	先行研究・事例の分析と検討（２）紀要等
12	先行研究・事例の分析と検討（３）報告書等
13	論文の構成（１）章立て作成
14	論文の構成（２）章立て再修正
15	論文の中間報告書作成・提出
16	なし
17	研究資料の収集（２）民間施設資料
18	研究資料の分析と検討（１）行政資料
19	研究資料の分析と検討（２）民間施設
20	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
21	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
22	事例研究・統計調査の方法（３）その他
23	実習における研究方法（１）指導案
24	実習における研究方法（２）環境構成
25	実習における研究方法（３）遊びの展開
26	論文の目的と再構成（１）全体の把握
27	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
28	論文の目的と再構成（３）最終調整
29	論文の報告書作成・提出
30	総括（論文の報告書提出含む）

31	なし

2020年度シラバス

科目名:学修総まとめの基礎Ⅱ	担当者:保育科教員	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学修総まとめの基礎Ⅰ（前期）を発展させたものである。保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
1　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
2　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
3　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書	参考図書
授業時に指示します	授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	研究資料の収集（１）行政資料
02	研究資料の収集（２）民間施設資料
03	研究資料の分析と検討（１）行政資料
04	研究資料の分析と検討（２）民間施設
05	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
06	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
07	事例研究・統計調査の方法（３）その他
08	実習における研究方法（１）指導案
09	実習における研究方法（２）環境構成
10	実習における研究方法（３）遊びの展開
11	論文の目的と再構成（１）全体の把握
12	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
13	論文の目的と再構成（３）最終調整
14	論文の報告書作成・提出
15	総括（論文の報告書提出含む）
16	なし

2020年度シラバス

科目名:文学の世界	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①保育者として不可欠な豊かな言語感覚と論理的思考力を身につける。②保育現場で教材として用いる童話の構成および特性について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。

評価方法
講義に取り組む姿勢、ミニレポート・創作（不定期）、定期試験（レポート）によって評価する。

教科書	参考図書
プリントを用意します。	『宮沢賢治全集』筑摩書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。

01	講義概説（講義の目標とその概説）
02	宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯）
03	宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手）
04	作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」
06	作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序）
08	作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」
09	作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」
13	作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

2020年度シラバス

科目名:環境の科学	担当者:辻 広志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。【AL】

授業の到達目標
地球環境、生物多様性、生態系のしくみについて理解し、環境保全活動の実践方法を知る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅周辺にはどのような動植物が生息しているか調べる。環境問題や野生生物に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手する。

評価方法
レポート点50%、平常点50%（授業感想文、授業への参加態度）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「エコ検定」等の環境に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性の危機の現状：世界のカエル類の約３割は絶滅の危機に瀕している！
03	生態系のしくみ：オオカミが自然を守っている？
04	植物の種子散布：身近な雑草の繁殖戦略
05	野外実習1：キャンパスの樹木観察
06	侵略的外来種：アカミミガメ、ブラックバス、アライグマが日本の生態系を破壊する
07	環境変動による環境負荷：地球温暖化が生物に及ぼす影響
08	有害化学物質による環境汚染：「沈黙の春」と「メス化する自然」
09	生態系の保全：世界自然遺産の光と影
10	希少種の保全：レッドデータブックで絶滅危惧生物を調べよう
11	企業・市民による環境保全活動：企業の環境報告書を読もう
12	自然再生事業：「ビオトープ」は生物の避難場所
13	女子学生の自然体験：身近な生き物アンケート
14	野外実習2：キャンパスの五感マップ作り
15	まとめと確認
16	なし

2020年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習Ⅰ	担当者:新沼 英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 留学タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義は円滑な留学生活の実施を目指しながら、問題発見・課題解決能力の醸成を目指し、受講者同士の意見交換や発表をとおし、確かな専門性と豊かな専門性の獲得を目指します。

授業の到達目標
1.短大での学修を土台とし、より高度な専門性を培う専攻科での学修の基礎を固める。
2.他者と協調・協働して課題に取り組み、解決しようと努力することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　本科目は留学タイプの学生を対象にしています。したがって日頃から語学学修に取り組むとともに、自ら異文化を理解するよう各々が意欲的に学修に取り組んでください。各回毎に課題を出しますが、概ね授業前後2時間程度の学修が必要です。

評価方法
授業への参加意欲と積極性（20%）、課題への取り組みと提出物の評価（50%)、レポート等（30%)
なお、欠席の場合は別途課題を課す。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
留学生活を円滑に行うための必須の授業です。課題等に真摯に取り組むこと。また、対面授業のほかskype等のメディアを利用することがあります。

01	オリエンテーション、オーストラリアの理解①
02	オーストラリアの理解②
03	先住民族（アボリジニ）について学ぶ
04	留学生活について
05	留学前準備について①
06	留学前準備について②
07	留学中の安全対策について
08	留学前のまとめ①
09	留学前のまとめ②
10	１週間の留学生活（第１週）を振り返って
11	１週間の留学生活（第２週）を振り返って
12	英語の絵本の読み聞かせ①
13	ホームステイ後の生活について
14	英語の絵本の読み聞かせ②
15	５週間の振り返りと今後の課題発表
16	

科目名:専攻科基礎演習Ⅰ	担当者:平野 朋枝・青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、学習計画
02	保育の現代的課題①
03	保育の現代的課題②
04	保育の現代的課題③
05	研究論文を作成するにあたって （中間発表を聴講して）
06	時事問題①
07	時事問題②
08	時事問題③
09	フィールドワークの計画と準備①
10	フィールドワークの計画と準備②
11	フィールドワーク①
12	フィールドワーク②
13	フィールドワーク③
14	フィールドワーク④
15	前期のまとめ、学習のふり返り
16	なし

2020年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:新沼英明、平野朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 留学タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義は円滑な留学生活の実施を目指しながら、問題発見・課題解決能力の醸成を目指し、受講者同士の意見交換や発表をとおし、確かな専門性と豊かな専門性の獲得を目指します。

授業の到達目標
1.短大での学修を土台とし、より高度な専門性を培う専攻科での学修の基礎を固める。
2.他者と協調・協働して課題に取り組み、解決しようと努力することができる。
3.前期の留学生活を振り返り、課題を明らかにした上で、その課題を解決しようとすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
本科目は留学タイプの学生を対象にしています。したがって日頃から語学学修に取り組むとともに、自ら異文化を理解するよう各々が意欲的に学修に取り組んでください。各回毎に課題を出しますが、概ね授業前後2時間程度の学修が必要です。

評価方法
授業への参加意欲と積極性（20%）、課題への取り組みと提出物の評価（50%)、レポート等（30%)
なお、欠席の場合は別途課題を課す。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
留学生活を円滑に行うための必須の授業です。課題等に真摯に取り組むこと。また、対面授業のほかskype等のメディアを利用することがあります。

01	オリエンテーション（現地対面授業）
02	語学学校を振り返って（現地対面授業）
03	保育コースに向けての課題について（現地対面授業）
04	ディスカッション・グループの課題と目標（現地対面授業）
05	オーストラリアの保育制度について
06	オーストラリアの子育てに関する諸問題
07	日豪の子育て文化について
08	ディスカッション・保育コースでの課題（現地対面授業）
09	ディスカッション・ オーストラリアでの今後の生活について（現地対面授業）
10	保育コースにおける研究について
11	オーストラリアにおける特別な支援が必要な子どもの支援
12	留学生活のまとめ①
13	留学生活のまとめ②
14	「留学報告会」の事前準備（帰国後）
15	留学報告会（修了式）
16	

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:平野 朋枝・青山 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:国内タイプ		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	学習計画
02	保育の現代的課題④
03	保育の現代的課題⑤
04	保育の現代的課題⑥
05	保育の現代的課題⑦
06	フィールドワークの計画と準備③
07	フィールドワークの計画と準備④
08	フィールドワーク⑤
09	フィールドワーク⑥
10	フィールドワークのまとめ①
11	フィールドワークのまとめ②
12	保育・教育の分野に関するトピック　1
13	保育・教育の分野に関するトピック　2
14	保育・教育の分野に関するトピック　3
15	まとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:海外英語研修	担当者:新沼英明・平野朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育提携校（オーストラリア）における語学コースで15週間の英語研修プログラムに参加することを基本として、日常の英会話の基本及びコミュニケーション力、異文化理解の能力などを総合的に向上させる。渡航当初はホームステイを必須とし、現地生活への適応能力を高めるものとする。語学コースでは保育に関する関連用語についても学び、語学コース修了後の保育コースでの学びと実習に備える。
授業の到達目標 実践的な英語を学び、保育者として英語で対応できる語学力を身につけることを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 日頃から英語の基本的な技能であるリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングを高める努力をすること。また、日本の文化や社会を他国の人へ伝えるような知識の修得にも努めること
評価方法 事前指導20%　　現地校による評価（英語力テスト・授業参加状況と受講姿勢の評価）50%現地語学コース参加中の報告レポート30%

教科書	参考図書
なし	適宜配布する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) この授業は、専攻科保育専攻の留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導をきちんと受けた上で、現地で語学能力の向上に努めることを求めます。

01	渡航前：（4～5月） オーストラリアへ留学するための事前指導が行われ、研修先の特徴や留学費用、ホームステイ先の選定などの情報を提供する。その過程において保護者参加可能の会も設けて留学への理解を深める。
02	オーストラリアでの語学研修：（5～8月） 語学能力に応じて段階別のクラスが編成され、他国の学生たちと触れ合いながら学習していく。 授業後は近隣の公立図書館などで自習をしながら自らの語学力を高めていく。
03	報告レポート提出：（5～8月） 現地での留学状況をレポートの形で隔週提出する。
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	